

猫のはなし



岡崎市動物総合センター「あにも」

所長 小川 淳治 氏

教育随想

動物総合センター「あにも」では、動物愛護管理業務の他に、市内畜産農家に対する家畜診療業務及び、東公園動物園管理運営業務など、動物に関する法的事務・市民サービスを一元的に行っています。

さて、ここ数年は「空前の猫ブーム」と言われ、テレビや雑誌などで猫を取り上げると、視聴率や売り上げが上がっているようです。その反面、「敷地内に糞尿をされて困っている」「野良猫が子猫を生んでしまった」など、猫に関する苦情・相談が数多く「あにも」に寄せられています。

私は、これらの問題の根源は、「猫の放し飼い」にあると思っています。自分の猫であると思っていて飼っている場合は勿論ですが、野良猫に定期的・安定的に餌を与え、本人は



令和3年2月1日

2月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想……………	1
岡崎市動物総合センター「あにも」 所長 小川 淳治 氏	
この人に聞く……………	2
スペイン料理店 店主 橋本 良太郎 氏	
羅針盤……………	2
額田中学校 校長 北村 文啓	
ふれあい……………	3
豊富小学校 教諭 原田 朋子	
特集……………	4
新たなスポーツの拠点 龍北総合運動場	
お知らせ……………	6
フォト・ヒストリー…	8
竹馬運動会（平成元年）	
この本を……………	8



飼っている意識がない場合もあります。これも一つの放し飼いです。特に、後者は、トイレの設置や不妊手術などの飼い主の義務について無自覚で、周辺の住民に与える影響にも配慮していません。

そこで、前述のような「猫問題」が発生してしまいます。

猫の放し飼い自体には、法的規制はありません。しかし、人に嫌われる猫をなくすためには、「完全室内飼育」「不妊手術の徹底」が必要であり、その考えが広く市民の皆様に浸透していくことを期待しています。

「あにも」には、毎年約三〇〇頭の猫が引き取られてきます。そのうち一五〇頭が新しい家族の元へ譲渡されます。残りの一五〇頭は、センターで亡くなる、または、処分依頼をします。そして、路上で亡くなった約五〇〇頭が搬入されます。

この三〇〇頭や五〇〇頭という数値について、皆さんはどのように感じられましたか。また、この数を減らしていくためには何ができるのでしょうか。一度、ゆっくり考えてみてはどうでしょうか。



心を届ける料理人

スペイン料理店 店主
橋本 良太郎 氏

その土地で季節ごとに味わえる素材にこだわり、新鮮な地元食材の旨みを生かしたスペイン料理を提供している。二〇一八年世界パエリアコンクール日本大会優勝に輝く実力者でもある。毎週無料で地元の人々にパエリアを振る舞い、元気にしている。それだけでなく、東日本大震災の被災地を訪れ、復興支援として、多くの方に現地の食材で作ったパエリアを食べてもらっている。

「スペイン料理を始めたきっかけを教えてください」

大阪での修行を経て、大好きな銘柄のビールの本場で働きたいという一心で、アイルランドに渡りました。一軒ずつとびこみで雇ってほしいと頼みました。しかし、英語が話せないため相手にもされませんでした。六十軒目でやっと面接ができ、仮採用になりました。その店の同僚のスペイン

人の実家に遊びに行くと、そこは、スペイン料理店でした。手伝っているうちに、スペインが日本と同じ米文化であることが分かり、その店の居酒屋のような雰囲気も気に入って、スペインバルを開きたいと思うようになりました。

「おいしいパエリアを作るためにしていることを教えてください」

「世界パエリア大会」に初出場したときの結果が悔しかったので、パエリアを研究しようと必死になり、始めたのが試食会です。そこでのアンケート結果をもとに試行錯誤を繰り返しました。

みなさんの応援もあり、パエリアコンクール日本大会で優勝しました。しかし、その後出場した世界大会で、世界の壁の高さを感じました。今も毎年二月に、二週間店を閉めて、スペインへ研修に行きます。レストランを食べ歩き、その期間だけ借りたアパートに戻り、自分で作ってみるとい生活をしています。そして、納得したものを帰国後、お客さんに提供しています。

「地産地消を掲げているのはなぜですか」

その土地の水で育まれたものを合わせるのがいちばんおいしいと思うからです。三河地方は、魚介類が豊富です。米は、契約農家さんに水分量を調節してもらったものを使っています。生産者と話し合い、一緒に作業をする中で、食材一つ一つの「命」と接していることに気付かれます。土地のものを使うだけではなく、生産者の思いを受け止めて食材を使うことが、本当の地産地消だと思います。

「無料でパエリアを振る舞ってよかったことは何ですか」

子ども食堂でパエリアを振る舞ったとき

に思ったことは、一つの鍋を囲んでみんなで温かい物を食べる行為には、人を励ます力があるということです。

被災地に支援に行ったときに、その土地の空気も水も、スパイスの一つだと思えました。私は、現地で食材を調達して作ります。地元の人たちが日頃食べている物を入れることで、安心感のようなものが生まれ、心も体も元気にさせるようです。

私にできる支援は、パエリアを作ることしかありません。しかし、私の考えに共感し、一緒に活動したり、違う場所で行ったりする人が増えて、支援の輪が広がってきたこともよかったことの一つです。

「最後に岡崎の先生たちにメッセージをお願いします」

自分の経験から、人は押し付けられたものではなく動かないと思います。その人が感じ、自発的に動くようになったときに、自分自身が変わります。教えた方が簡単だと思えますが、そのとき子供が必要としていないれば、押し売りになってしまいます。ですから、常に「伝えたい」という気持ちを大切にしたいと思っています。たとえ今感じられなくても、熱く語っていた先生の思いが伝わる時があるはずですよ。「伝えたいより、伝えたい」を大切に、子供と向き合ってもらえるとうれしく思います。



氏名
はしもと
りょうたろう
生年月日
昭和五十五年
三月十二日
住所
岡崎市大平町

『学びに向かう力』を育成するには

額田中学校
校長 北村 文啓

予測不能な未来社会を生き抜くためには、『学びに向かう力』を發揮する生徒を育成することが重要であると考えている。

本校では、『学びに向かう力』を、文部科学省が主体的に学習に取り組む態度として示す次の二つの側面から考える。「継続的に学ぶ側面」では課題を発見し、解決するために粘り強く取り組む力、「学びを調整する側面」では学び方を振り返り、調整し、次の学びにつなげる力の二つである。

『学びに向かう力』を發揮する生徒を育成するためには、小集団の学習を核とした授業と、自らの学習がどうであったかを振り返るセルフチェックを大切にする。

小集団の学習を核とした授業のメリットは、発言や活動量が増え、主体的な学習を生み出せること、考え





心が通い合うこと

豊富小学校

教諭 原田 朋子

「たたく×だめ」ける×だめ」。

三年前の四月、私がAさんのいる教室に足を踏み入れたときに、掲示されていた言葉である。その年、私は初めて特別支援学級の担任をすることになり、Aさんと出会った。この日から、私とAさんの一対一の生活が始まった。

当時Aさんは、思いを表現することが苦手な上に感情のコントロールが得意ではなく、パニックを起こすと、その気持ちを体全体で私に伝えてきた。また、大声で叫び、教室から出ていくこともあった。

私は、Aさんとの関係を作るため、「目を合わせること」「感情表現を受け止めること」を心掛け、たいた蹴ったりしてはだめだと諭し続け

た。はじめは視線を合わせることが少なかったAさんだったが、私はAさんの目から目をそらさないようにした。そして、少しでも進歩が見られたときには、「すごい。上手だね。花まるだね」と、短く分かりやすい言葉でAさんの頑張りを認め、褒めた。その言葉は、少しずつAさんの心に届くようになり、次第にパニックの回数も減っていった。私のことを受け入れてくれたのかもしれない。私はAさんに感謝した。

また、Aさんが発する擬音のような言葉や、繰り返し発するお気に入り言葉に、擬音で返したり、同じ言葉を言ったりした。するとAさんは、お気に入りの決まった言葉を、かけ合いのように言ってくれと求めてくるようになった。そんなときはAさんの楽しみに付き合い、それから勉強の方に気持ちを戻すようにした。

短く分かりやすい言葉で褒める。単純な言葉のやり取りを繰り返す。これらを粘り強く続けていくことで、Aさんの情緒は徐々に安定していった。そして、交流学級の活動にも少しずつ参加できるようになって

いった。

これまでは、せりふ一つを言うことが精一杯だった学芸会。しかし、三年間のスモールステップの努力を重ねた成果で、六年生の学芸会では、舞台上で踊り、堂々とせりふを言い、汽車を走らせるという演出効果にも参加するなど、驚くほどの成長を見た。Aさんが友達と一緒に頑張る姿を舞台袖から見ていた私は、Aさんが舞台袖に戻ってくるたびに「すごい。上手だよ。花まるだよ」と、Aさんの頑張りを受け止めた。

卒業を間近に控えた今でも、お気に入りの言葉のかけ合いは、私とAさんの大切なコミュニケーションの一つとなっている。また、AさんにはAさんのことを受け止めてくれる素敵な仲間ができた。

あの教室掲示は、今となっては懐かしい思い出の一つである。



や意見を交わしやすく、即時性のある活動を展開できること、学習が遅れがちな子、消極的な子の参加が期待できること等である。四人程度の小集団であれば気軽に発言でき、特に、「分らない」と素直に言える人間関係を築くことができる。生徒が粘り強く取り組む力を発揮するには、生徒にとって身近で切実感のある課題を生み出す教師支援を重視する。学ぶ意欲を継続できる課題であれば、小集団によって主体的で対話的な学習ができる。

また、セルフチェックをする際には、目標への到達度と学び方の二つの視点で振り返ることを重視している。セルフチェックを通してメタ認知力を育成し、次の学びにつなげられるようにする。このセルフチェックは、授業、学校生活だけでなく、自分の人生において活用することで、生涯にわたって『学びに向かう力』を発揮できると考える。

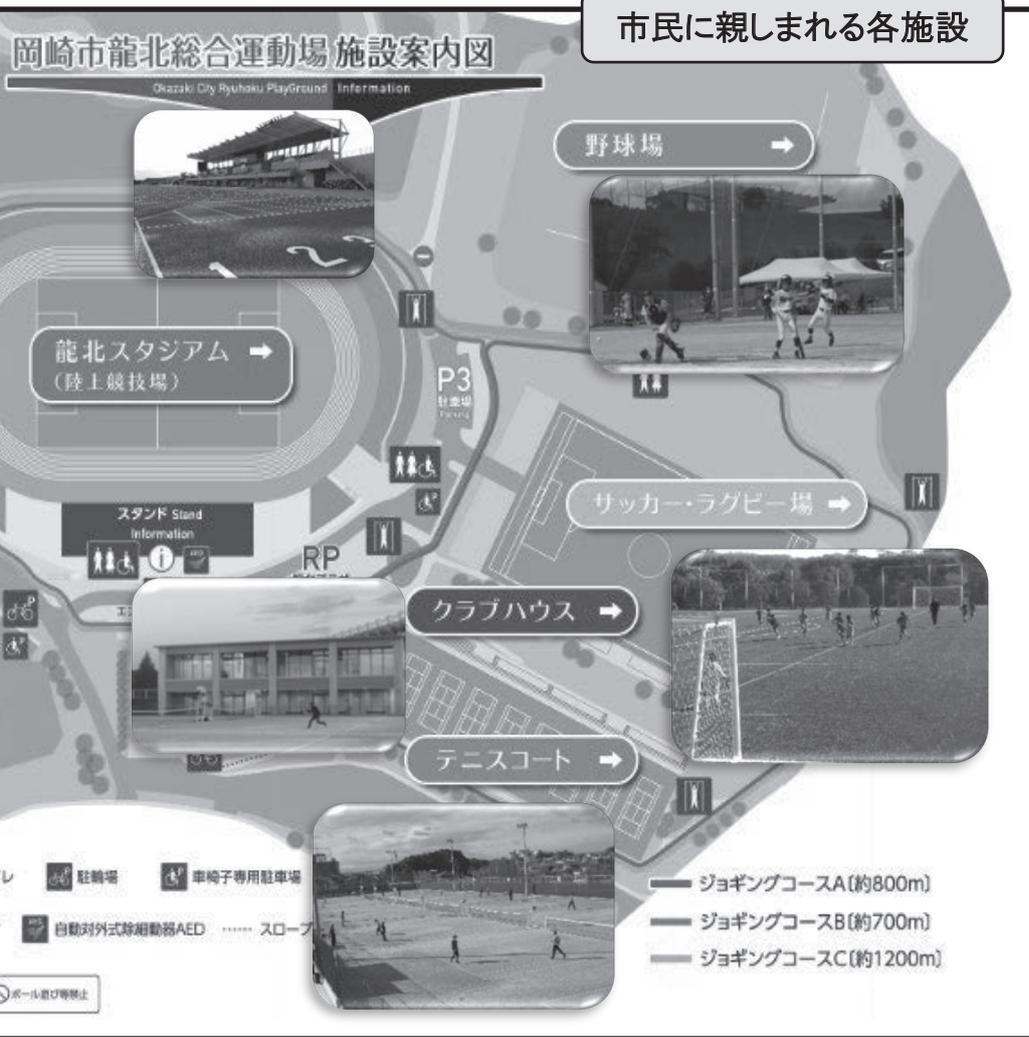
『学びに向かう力』を発揮するには、小集団による学習の中で、生徒に委ね、粘り強く取り組ませる時間と場を確保することが重要である。そしてセルフチェックで振り返らせ、次の学びにつなげることも重要である。生徒が目標に到達できるように、具体的に綿密な教師支援が必要である。

新たなスポーツの拠点 龍北総合運動場



市民に親しまれる各施設

昭和四十三年に開場され「県営グラウンド」の愛称で、市民から長年親しまれてきた愛知県岡崎総合運動場。平成三十年に県から市へ移管されて、再整備が行われた。そして「龍北総合運動場」として新しく生まれ変わり、令和二年七月四日（土）にグランドオープンした。自然と「調和し」、市民を「惹きつける」、「誰もが使いやすい」運動場をコンセプトとして掲げ、運営されている。そのため、オープンして間もないが、陸上競技場で高校生が練習に励む姿、市民の方がテニスコートでテニスを楽しむ姿や競技場周辺をジョギングやウォーキングをしている姿が連日のように見られ、すでにスポーツを楽しむ施設として親しまれている。岡崎市では初めてとなる芝生のサッカー場や最新鋭の機材も導入され、今後、スポーツ振興の拠点として期待される施設である。



未来のアスリートの育成

全天候型ゴムチップウレタン舗装で、記録が出やすいタータントラックになっている。高校生以下は1人につき100円で利用できる。
 インフィールドは天然芝を有し、サッカー(JFL)の公式戦も行うことができ、6月から使用可能となる。
 スタンドには約1000席の観覧席がある。

【龍北スタジアム】



▲岡崎市中学校新人総合体育大会
 (陸上競技の部)

とてもきれいなグラウンドで、地面は柔らかいのにしっかり反発があって、とても走りやすいです。これまでよりよいタイムを出せました。今後も記録を伸ばせそうです。(城北中3年生徒)

走路が土からタータンに変わりました。選手の記録が出やすく、生徒たちも以前より楽しく大会に臨んでいる様子が見られました。(常磐中陸上部顧問)

【サッカー・ラグビー場】



▲岡崎市中学校市長杯総合体育大会
 (サッカー競技の部)

本市初となるロングパイル人工芝で整備されたピッチは、季節や天候に左右されず利用可能である。

土のピッチでは、雨が降ると練習できなったり、日頃の練習の成果が発揮しにくくなったりしていましたが、人工芝ならどんな天気でもボールを扱いやすく、プレーしやすいです。(甲山中2年生徒)

上位の大会に出ると、人工芝のグラウンドが多く、市内大会で試合経験を積むことは、とてもプラスになります。また、正規の大きさのグラウンドでプレーできることも、生徒にとって、とても大きな経験になります。(南中サッカー部顧問)

【アーチェリー場】



▲高等学校アーチェリー部の練習

70mのロングコースがあり、県内でも数少ない公式戦が行える本格的な競技場。市内外を問わずに、練習場としても利用されている。

最新鋭の設備

【全自動で行える計測機器】



電子ピストルによるスタート、ゴールには写真判定装置があり、競走競技では、全て自動で正式なタイムを計測することができる。また、それがパソコンともつながっており、記録の集計も自動で行うことができる。

【大会運営を考えた各種部屋】



チームの控室には、選手一人ひとりの個別スペースやシャワールーム、作戦エリアなどが併設されている。競技エリアでは、ガラス越しにアナウンスルームや会議室などがあり、大会を運営する工夫がなされている。

小中学校の利用例



▲西三河中学校駅伝競争選手権大会



▲小学校陸上競技大会



▲常磐中学校体育大会





●教育最新情報

◆令和三年度研究発表校

令和三年度の市委嘱研究発表校は以下の三校である。また研究主題と公開する授業の教科・領域等は次のような予定となっている。

○翔南中学校(全教科)

・十月二十日(水)

【研究主題】

「未来をたくましく生きる力を育む教育の創造」

「仲間と学ぶSOZOの時間を核に据えて」

○広幡小学校(全教科)

・十月二十七日(水)

【研究主題】

「『自らの意思で 発見・判断・実行できるスーパーソサエティキッズの育成』」

○羽根小学校(全教科)

・十月十三日(水)

【研究主題】

「プログラミング的思考育成からはじめる創造的な学び」
「プログラミンング的思考育成を主体的・対話的な学びとして実践することで創造的な学びを実現する」

○竜海中学校(全教科)

・十一月十二日(金)

【研究主題】

「未来をたくましく生きる力を育む教育の創造」

「自ら学び続ける生徒の育成」

「『読む』・『書く』の充実を図り、『わかる』の実感を強める学習指導を中心に」

○矢作東小学校(国語)

・十一月二十六日(金)

【研究主題】

「国語力向上をめざす授業の構築」

「一人一人の子供が主体的に学び、深め、広げていく学習指導の在り方」

「論理的文章を読むことから活用することへと展開する授業」

令和三年度の自主発表校は以下のとおりである。また研究主題と公開する授業の教科・領域等は次のような予定となっている。

○附属岡崎小学校

・十一月十八日(木)

・十一月十九日(金)

来年度、東海地方数学会「第六十八回研究(愛知)大会が開催される。岡崎市内外四校を会場に、算数・数学科の授業公開が行われる予定となっている。

・十一月九日(火)

発表校：六名小学校
竜美丘小学校

城南小学校

竜海中学校

三位 城北中A

三区区間賞 竜海中

三島小 杉田 晃大

四区区間賞 矢作北中

辻 陽介

○中学女子の部

優勝 矢作北中A

二位 竜海中A

二区区間賞 矢作北中

秋竹 凜音

三区区間賞 竜海中

壁谷 裕奈

◆第五十七回全国児童才能開発コンテスト

○作文部門(低学年の部)

○作文部門(高学年の部)

【文部科学大臣賞】

井田小 西 優成

○作文部門(高学年の部)

【文部科学大臣賞】

三島小 杉田 遥香

【全国都道府県教育長協議会会長賞】

三島小 渡邊 蓮奈

矢作南小 鬼頭 佑輔

●表彰関係

◆二〇二〇愛知陸上競技協会

駅伝競走大会

○中学男子の部

優勝 竜海中A

二位 矢作中A

【全国連合小学校長協会会長賞】

六ツ美南部小 浅岡 結斗

【日本PTA全国協議会会長賞】

梅園小 高橋 咲理

本宿小 嶺石 実花

梅園小 南部 美雨

六ツ美西部小 市川紗帆走

六ツ美南部小 小山 景大

【学研賞】

連尺小 石倉新良太

愛宕小 石川 稀唯

六ツ美北部小 世古 夢琉

六ツ美南部小 金山 咲希

【才能開発教育研究財団理事長賞】

六名小 田中 晴基

竜美丘小 小里 穂花

◆第七十二回赤い羽根協賛

児童生徒作品コンクール

○習字の部

【銀賞】

竜海中 判治 孝哉

【佳作】

三島小 判治 直哉

◆第二十四回「俳句の里」

山梨笛吹市全国小学生・

中学生俳句会

○小学生の部

【秀作】

竜谷小 窪 海翔

◆第六十一回小学校作文コン

クール

○個人の部

【特選(愛知県教育委員会賞)】

緑丘小 立山宗一郎

◆令和二年度土砂災害防止に

関する絵画・作文コンクール

○絵画部門(中学生の部)

【佳作】

新香山中 小野 陽輝

◆第七十回社会を明るくする

運動作文コンテスト

○中学生の部

【愛知県教育委員会賞】

翔南中 池山 花

◆第四十五回ゆうちょアイデア

貯金箱コンクール

○小学校二年生の部

【すてきなデザイン・アイデア賞】

三島小 野村 奈央

小豆坂小 河野 朝飛

○小学校五年生の部

【すてきなデザイン・アイデア賞】

大樹寺小 柴田風羽香

◆没後十年第九回家族を歌う

〜河野裕子短歌賞〜

○青春の歌部門(中学生の部)

【入選】

竜海中 内山 芽泉

◆税に関する習字

○小学生習字の部

【優秀賞】

福岡小 柴田 瑛子

◆二〇二〇年度「ソニー子ども

科学教育プログラム」

【奨励校】

岩津小

大門小

小豆坂小

●ハートピアだより

ハートピアでは、悩みや問題を抱えている子供がほとんどである。それでも通所するようになつてからは、自分を変えたいと頑張っている姿が多くみられる。成長の仕方も個々で大きく異なつていますが、それが自然なことだと捉えている。

ハートピアのよさは、違う学年の子供と一緒に生活し、深く交流していることにある。後輩は先輩の動きをよく見ている。そして、その姿から自分の将来を描いている。中学三年生の子供たちも、あと二か月あまりの通所となる。これからは進路に向けて頑張る姿を見せてくれるだろう。それがまた後輩のよき手本となつていくと考えている。



教職員の相談窓口

【対象】全教職員 【相談内容】・勤務のこと・家庭のこと・心や体のこと 等

番号	相談窓口	電話番号	相談受付日時
1	岡崎市教職員相談ダイヤル	0564-64-3322	火曜日～金曜日 12:00～19:00 土曜日 12:00～16:30
2	岡崎市こころのホットライン	0564-64-7830	平日 13:00～20:00
3	愛知県総合教育センター教育相談	0561-38-2217	月曜日～金曜日 9:00～17:00
4	あいこころのホットライン 365	052-951-2881	年中無休 9:00～16:30
5	名古屋いのちの電話	052-931-4343	年中無休 24時間

・カ
ツ
ト

城
北
中
鶴
田
加
代
子

竹馬運動会 (平成元年)

写真提供：六ツ美中部小学校



写真は、市内でも珍しかった竹馬運動会の様子である。竹馬を巧みに操り、ボールを運びながら、前に進んでいる。子供たちは、竹馬を通して様々な競技を楽しんだ。

六ツ美中部小では、昭和四十年代半ばから「裸足教育」「乾布摩擦」「竹馬」「相撲体操」など、体を鍛えることを積極的に教育課程に取り入れてきた。家の方が手作りしてくださった竹馬で、子供たちは盛んに遊んだ。竹馬は、平成、令和と時代を経ても継続されている。四年前には地域をあげて「竹馬リレー」に挑戦し、ギネス世界記録に認定された。

地域と共に子供たちを鍛え、心豊かに育む姿勢は今も変わらぬ。地域とのつながりがある。あつてこそその岡崎の教育である。

ところ変われば、材料も変わる。橋本さんのパエリアは、すべて現地調達された材料で作られる。その土地の水で育ったものを一つの鍋に入れて作る。究極の地産地消の食事である。おいしさの秘訣は食材だけではない。作り手の真心が食べる人を幸せにする。

とホ

如月



▲鬼は外、コロナも外(梅園小)

本気と本気がぶつかり合う、新たな岡崎のスポーツの拠点、龍北総合運動場。そこでは、競技を通して生まれる感動と共に、子供たちの成長がたくさん見られるに違いない。

その瞬間に出会うため、子供たちに本気で向き合いたい。

ツ

つながる心と心。それは、言葉と言葉を交わすことから始まる。互いを認め合える温かな雰囲気を作っていくことが、子供たち一人一人の安心感につながる。

子供の声に耳を傾け、じつくりと聴く。不安や悩みを受け止め、共に前に進む。そんな教師でありたい。



***絆創膏日記** 東田 直樹
KADOKAWA ¥1,400

心に残った一文
どんな人も、自分という人間に生まれてきたことに感謝し、精一杯人生を生きることが使命なのだ。

重度の自閉症である著者が、パソコンで自分の内面を伝えた本書。燃えるような夕焼けの美しさに魂が震え、興奮のあまり奇声を上げて動き回る著者。「自閉症の僕は、普通の人の感性を知ることはないだろう」と著者は語るが、表現の仕方は違っても、美しいと思う感性は、著者の言う普通の人と何ら変わらない。

チャイムが鳴ると皆が一斉に席に着くのが、まるでパズルが完成したかのように思えてうれしくなり、跳びはねてしまうと言う。これが喜びの表現だと理解していれば、私たちはきっと柔軟な対応がとれる。どんな事態にも対応できる心の準備は、相手の理解から始まる。

***ホッとでほつと学級開き・授業開き**

黎明書房	前田 勝洋	¥1,600
*運動遊びが子供の脳と体を鍛える	吉川 静雄	
ミネルヴァ書房		¥2,000
*ADHDの正体	岡田 尊司	
新潮社		¥1,350
	奥殿小 赤崎 類子	